様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年３月３１日現在

機関番号：３４３０４
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21520658
研究課題名（和文）　近世の朝廷と賀茂に関する史料(御記・絵巻等)の研究と活用

研究課題名（英文）　The research and utilization of historical materials concerning the Imperial Court and Kamo Shrine in the Edo period

研究代表者
所　功（TOKORO ISAO）
京都産業大学・法学部・教授
研究者番号：10087728

研究成果の概要（和文）：
近世（江戸時代）の賀茂大社（上賀茂・下鴨両社）では、世襲の社家神職たちにより、朝廷と幕府の支援をえて、葵祭や社務が運営されてきた。私共は、その実情を伝える社家の記録や祭礼の絵巻などを、朝廷の御記や公家の日記などと照合しながら、相互関係の解明に努めた。その成果は、本学日本文化研究所の紀要や所報などに発表し、また本学図書館所蔵の賀茂関係絵巻などは大半をデジタル化し詞書(ことばがき)の解読も加えて貴重書アーカイブスに公開している。

研究成果の概要（英文）：
In the Edo period, the Kamo Shrine was administered by the *Shake* ,descendants of Shinto priest families, with support from the Shogunate and Imperial Court. They also managed important festivals like the Aoi-Matsuri. We researched the Shake's historical records and picture scrolls of the Aoi-Matsuri which report the actual circumstances of the festival, and inspected them by collating with Imperial records and the diaries of court nobles in order to investigate the roles and relationship between the Shake, the Imperial Court and the Shogunate.
The results were published in bulletins of the Center of Japanese Culture at Kyoto Sangyo University. Additionally, the greater part of the picture scrolls possessed by Kyoto Sangyo University were digitized and published as digital archives.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学・史学一般
キーワード：日本史、朝廷、賀茂、御記、絵巻

１．研究開始当初の背景
(1)近年における近世朝廷研究の活性化
①研究の進展（様々な点での研究の深化）
②『天皇皇族実録』の刊行など、資料環境の充実

③私共が平成 12 年から行っている「後桜町女帝宸記研究会」の活動（後桜町天皇宸記の翻刻・解説）の蓄積

(2)賀茂に関する私共の資料収集・研究の蓄積

①賀茂社関係資料調査・研究の活性化

②賀茂に関する絵巻・古文書などの収集（複写なども含む）の蓄積

③賀茂関係資料の共同研究（所在調査を含む）の実績

(3)情報技術の発展

資料のデジタル化・web 上での発信などが可能な情報技術の発展

２．研究の目的

私共の研究の目的は、近世の政治文化史を解明する史資料として、後桜町女帝の自筆「宸記」と賀茂祭関係の絵巻類に注目し、前者の解読･注釈と、後者の比較検討を、本学内外の研究者と共同で取り組み、その成果を出版物や講演会及びデジタル画像などによって公開・発信することである。

３．研究の方法

(1)私共の研究のうち、近世の女性天皇である後桜町天皇帝の宸記に関する研究については、平成 12 年以来継続してきている「後桜町女帝宸記研究会」を核に進めた。メンバーは、所　功･川北靖之･小林一彦･宮川康子・若松正志という本研究の代表者・分担者と、学外の専門研究者十名ほど（本研究では研究協力者）である。そのなかで３班を作り、後桜町天皇の即位式（宝暦 13（1763）年 11 月 27 日）の翌年（宝暦 14（明和元・1764 年）1 月から 7 月までを中心に、自筆の「宸記」（京都御所東山御文庫所蔵）の翻刻と調査を分担して行い、研究会で発表・検討し、さらに専門研究者（今江廣道氏・宍戸忠男氏）のチェックをふまえ、原稿をまとめた。調査の必要性から、宮内庁書陵部や国立公文書館内閣文庫などに出張した。

なお、平成 22 年度からは、後桜町天皇を中心とする研究発表を軸とする形に移行した。

(2)次に、賀茂関係資料の研究については、平成 19 年度から始めた「賀茂関係絵画資料研究会」を核に進めた。こちらには学内では上記５名と黒住祥祐が、そして学外の 10 名ほどの専門家（本研究では研究協力者。美術史の専門研究者や上賀茂神社・下鴨神社の神職を含む）が加わり、賀茂に関する様々な資料について、各自が分担して調査を進め、研究成果を発表しあい、議論し、研究をまとめた。研究に際し、京都市歴史資料館や京都府立総合資料館などで調査を行った。

(3)また、上記の２つの研究会おいて、さらにゲスト講師として専門研究者を招き、最先端のあるいは最新の研究成果などをご発表いただき、議論する機会をもった。

４．研究成果

(1)研究成果のいくつかは、『京都産業大学日本文化研究所紀要』に論文・研究ノート・史料紹介などとして、掲載された。また、賀茂関係資料の研究成果は、京都産業大学図書館の web の「貴重書電子展示室」にも組み込まれた。

以下、２つの研究会に分けて、研究会の記録と成果を記すことにする。

(2)後桜町女帝宸記研究会

平成 21 年度は､11 回の研究会を開催し、「宸記」明和元（1764）年 6 月 2 日条～7 月 29 日条の翻刻と調査の発表・検討を進めた。また、ゲスト講師として、鶴見大学名誉教授の岩佐美代子氏と目白大学の石澤一志氏を招き、平安時代の文学や宮中の女官に関する貴重なお話をうかがった。

そして、前年度までに行った宝暦 14（1764）年正月条・2 月条の翻刻と解説を『京都産業大学日本文化研究所紀要』第 14 号（平成 21 年 12 月刊行）に掲載し、この頃の朝廷の正月行事や歌会始の様子を紹介した。この第 14 号にはまた、研究会のメンバーで研究協力者である飯塚ひろみ氏の「東山御文庫蔵『後桜町院天皇御製』の翻刻と解説―後桜町天皇の和歌活動(2)―」も掲載した。

さらに、宝暦 14 年同 3 月 1 日条～6 月 1 日条の翻刻と解説を同第 15 号（平成 22 年 3 月刊行）に掲載し、この頃の朝廷の様子や賀茂祭・明和改元への動きなどを紹介した。なお、この第 15 号には、日本文化研究所の上席特別客員研究員である村山弥生氏の「『菊号調書』にみる京都社寺の「菊御紋」使用状況」も掲載した。

平成 22 年度からは、翻刻が一段落したことを受け、後桜町天皇を中心とする研究発表を軸とする形に移行し、研究会を 6 回開催した。研究協力者では岸本香織氏・吉野健一氏・宍戸忠男氏が報告し、また元宮内庁正倉院事務所長の米田雄介氏・東京大学名誉教授の藤田覚氏をゲスト講師として招き、専門的知見を発表いただいた（研究会の報告要旨は、『あふひ（京都産業大学日本文化研究所報)』第 17 号（平成 24 年 3 月刊行）に掲載)。

そして、前年度進めた「宸記」明和元年 6 月 2 日条～7 月 29 日条の翻刻と解説を、『京都産業大学日本文化研究所紀要』第 16 号（平成 23 年 3 月刊行）に掲載し、この頃の朝廷の様子や改元について紹介した。なお、この第 16 号には飯塚ひろみ氏の「東

山御文庫蔵『後桜町院天皇御製』の翻刻と解説―後桜町天皇の和歌活動(3)―」も掲載した。

平成23年度は、4回の研究会を開催した。所　功・宮川康子、連携研究者の海野圭介氏、飯塚ひろみ氏・宍戸忠男氏が発表し、また宮中歌会始の選者を長年つとめられている本学総合生命科学部長の永田和宏教授をゲスト講師に招き発表いただいた（要旨は、『あふひ（京都産業大学日本文化研究所報）』第18号に掲載予定）。

そして、所　功「後桜町女帝の政事・歌道に関する覚書　後桜町女帝の公事関係『実録』（抄）　後桜町女帝の歌道伝授関係記事（抄）」と、飯塚ひろみ氏の「東山御文庫蔵『後桜町院天皇御製』の翻刻と解説―後桜町天皇の和歌活動(4)―」、研究協力者の村山弘太郎氏と村山弥生氏の「京都府立総合資料館所蔵『菊号調書』の翻刻と解説(1)」を『京都産業大学日本文化研究所紀要』第17号（平成24年3月刊行）に掲載した。

(3)賀茂関係絵画資料研究会

平成21年度は、12回の研究会（1回の公開講演会、2回の資料見学会を含む）を行った。公開講演会では、研究協力者で京都国立博物館の若杉準治氏が「異形賀茂祭絵巻」を、同じく研究協力者で千葉大学（当時）の山本宗尚氏が「賀茂競馬絵巻」を、所　功が「賀茂臨時祭絵巻」をそれぞれ取り上げ、その特色などについて報告した。また、研究会のメンバー（研究協力者）の発表以外に、9月の研究会では中川学氏（東北大学講師）をゲスト講師として招き、最新の研究成果を発表いただいた（研究会の報告要旨は、『あふひ（京都産業大学日本文化研究所報）』第16号に掲載）。

そして、『京都産業大学日本文化研究所紀要』第14号には、以前ゲスト講師として発表いただいた國學院大學（当時）の佐多芳彦氏の「『賀茂祭絵詞』とその周辺」、研究協力者である宇野日出生氏の「賀茂別雷神社「葵使」関係文書の翻刻と解説（下）」を掲載した。

次に同第15号には、所　功の「『賀茂臨時祭絵巻』（京都産業大学図書館所蔵）」と研究協力者である末松剛氏の「『年中行事絵巻』にみえる関白賀茂詣について」と山本宗尚氏の「賀茂競馬図屏風に関する一考察」、前年度にゲスト講師としてお招きした猪熊兼樹氏の「賀茂別雷神社蔵『賀茂祭絵図』「勅使諸司行列巻」に関する小考」を掲載した。

平成22年度は、研究会自体は3回と少なかったが、「賀茂斎王―1200年の歴史と文学―」というシンポジウムを開催したことが特筆される。歴史の分野から斎宮歴史博物館の榎村寛之氏を招き「賀茂斎院の成立と特色」を、文学の分野から日本女子大学名誉教授の後藤祥子氏を招き「賀茂斎王の和歌と物語」を、それぞれ講演いただき、所　功・小林一彦らとディスカッションを行った。その成果は、『京都産業大学日本文化研究所紀要』第16号に掲載した。

平成23年度は、2回の研究会を開催した。下御霊神社の出雲路敬直宮司と国士舘大学の藤森馨氏をゲスト講師に招き、発表いただいた。研究成果の掲載に関しては、山本宗尚氏の「三手文庫書籍に関する覚書」、同氏と所　功の共著として「京都産業大学図書館蔵　奉納　賀茂文庫書籍目録」、そして前年度ゲスト講師として発表いただいた宮城学院女子大学非常勤講師の泉 万里氏の「赤星家旧蔵の祭礼小絵巻とその模本について」、同じく前年度にゲスト講師として発表いただいた三重中京大学名誉教授の上野利三氏の「律令学者・戸田保遠（上賀茂社家）の日記とその翻刻(1)」を、『京都産業大学日本文化研究所紀要』第17号に掲載した。

(4) その他

3年間を通して、近世朝廷関係及び賀茂関係の重要な資料の収集に努めた（そのいくつかについては、分析を加え発表した）。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

主な発表論文等は下記の通りである。私共の共同研究は、科学研究費補助金助成を受けたこの３年間以前から始まっており、厳密な意味でこの補助金でのみ行った研究成果とは言い難いが、研究発表者・研究分担者が筆者となっている、この３年間に出た雑誌論文や研究発表を、以下に列挙する（研究協力者のみが筆者名の論文・発表については、私共の所属機関の紀要・所報・研究会によるものを「4.研究成果」のなかに記し、ここでは除外した）。

〔雑誌論文〕（計７件）

①所　功「後桜町女帝の政事・歌道に関する覚書　後桜町女帝の公事関係『実録』（抄）後桜町女帝の歌道伝授関係記事（抄）」【研究ノート】（『京都産業大学日本文化研究所紀要』17、73-114、2012、査読有）

②山本宗尚・所　功「京都産業大学図書館蔵奉納　賀茂文庫書籍目録」【史料紹介】（『京都産業大学日本文化研究所紀要』17、115-124、2012、査読有）

③後桜町女帝宸記研究会（所　功・若松正志・吉野健一・川北靖之・小林一彦ほか11名）「後桜町天皇宸記―明和元年6月2日条～7月29日条―」（『京都産業大学日本文

化研究所紀要』16、1-39、2011、査読有）
④所　功「元禄七年写『賀茂祭草子』（本学図書館所蔵本）の解説」【資料解説】（『京都産業大学日本文化研究所紀要』16、226-253、2011、査読有）
⑤後桜町女帝宸記研究会（所　功・若松正志・吉野健一・川北靖之・小林一彦ほか10名）「後桜町天皇宸記―宝暦14年3月1日条～7月29日条―」（『京都産業大学日本文化研究所紀要』15、61-101、2010、査読有）
⑥所　功「『賀茂臨時祭絵巻』（京都産業大学図書館所蔵）」【資料紹介】（『京都産業大学日本文化研究所紀要』15、119-137、2010、査読有）
⑦後桜町女帝宸記研究会（所　功・若松正志・川北靖之・小林一彦ほか16名）「後桜町天皇宸記―宝暦14年正月条・2月条―」（『京都産業大学日本文化研究所紀要』14、1-51、2009、査読有）

〔学会発表〕（計7件）
①所　功「江戸時代世襲宮家と現代の宮家問題について」（京都産業大学日本文化研究所研究会、2012年3月13日）
②宮川康子「元禄七年賀茂祭再興について―野宮定基日記から―」（京都産業大学日本文化研究所研究会、2012年3月13日）
③所　功「後桜町天皇の公事・雑事」（京都産業大学日本文化研究所研究会、2011年7月26日）
④小林一彦「鴨長明の和歌と生涯―新資料の紹介を交えて―」（京都産業大学日本文化研究所研究会、2010年1月19日）
⑤若松正志「『加茂両社行幸図巻』をめぐって」（京都産業大学日本文化研究所研究会、2009年12月15日）
⑥所　功「賀茂臨時祭絵巻の特色」（京都産業大学日本文化研究所公開講演会、2009年11月28日）
⑦黒住祥祐「賀茂絵画資料のWeb化と高精細画像の表示」（京都産業大学日本文化研究所研究会、2009年4月21日）

〔その他〕
ホームページ等
http://www.kyoto-su.ac.jp/lib/kichosyo/index.html
（京都産業大学図書館　貴重書電子室。このうち特に「賀茂史料」の部分）

６．研究組織
(1)研究代表者
所　功（TOKORO ISAO）
京都産業大学・法学部・教授
研究者番号：10087728
(2)研究分担者
川北　靖之（KAWAKITA YASUYUKI）
京都産業大学・法学部・教授
研究者番号：70131274
黒住　祥祐(KUROZUMI YOSHISUKE)
京都産業大学・コンピュータ理工学部・教授
研究者番号：70065837
（黒住は平成21年度のみ研究分担者）
小林　一彦（KOBAYASHI KAZUHIKO）
京都産業大学・文化学部・教授
研究者番号：30269568
宮川　康子（MIYAGAWA YASUKO）
京都産業大学・日本文化研究所・教授
研究者番号：60251154
若松　正志（WAKAMATSU MASASHI）
京都産業大学・文化学部・教授
研究者番号：20230922
(3)連携研究者
海野　圭介(UNNO KEISUKE)
国文学研究資料館・准教授
研究者番号：80346155
山口　剛史（YAMAGUCHI TAKESHI）
皇學館大学・神道研究所・助手
研究者番号：20454457
(4)研究協力者（この研究課題に関して、全般にわたり協力いただいた方。ゲスト講師として、単発で研究発表いただいた方は除く）
飯塚　ひろみ（同志社女子大学非常勤講師）
石田　俊（京都光華女子大学非常勤講師）
今江　廣道（國學院大学元教授。平成21年逝去）
宇野　日出生（京都市歴史資料館職員）
岸本　香織（京都造形芸術大学非常勤講師）
京條　寛樹（賀茂御祖神社神職）
久世（野村）　奈欧（京都大学大学院生）
嵯峨井　建（賀茂御祖神社神職）
笹部　昌利（京都産業大学・佛教大学非常勤講師）
篠田　孝一（専門学校非常勤講師）
宍戸　忠男（國學院大學兼任講師）
末松　剛（京都造形芸術大学准教授）
土橋　誠（京都府立総合資料館職員）
橋本　富太郎（モラロジー研究所研究員）
松本　公一（池坊短期大学教授）
村山　弘太郎（京都外国語大学非常勤講師）
山本　宗尚（京都大学研究員）
吉野　健一（京都府丹後郷土資料館技師）
米田　裕之（賀茂別雷神社神職）
若杉　準治（京都国立博物館名誉館員）